

取扱説明書

マメトラ ハーベスタ

MT-35C-51. 71

MT-40B

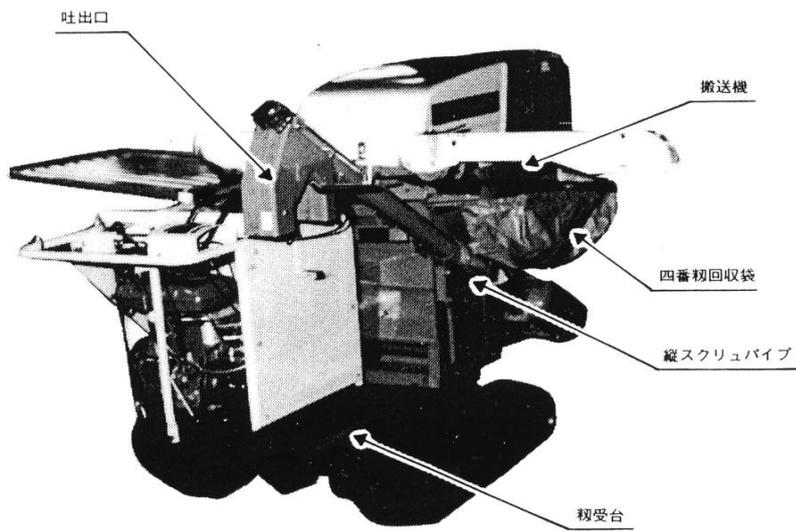
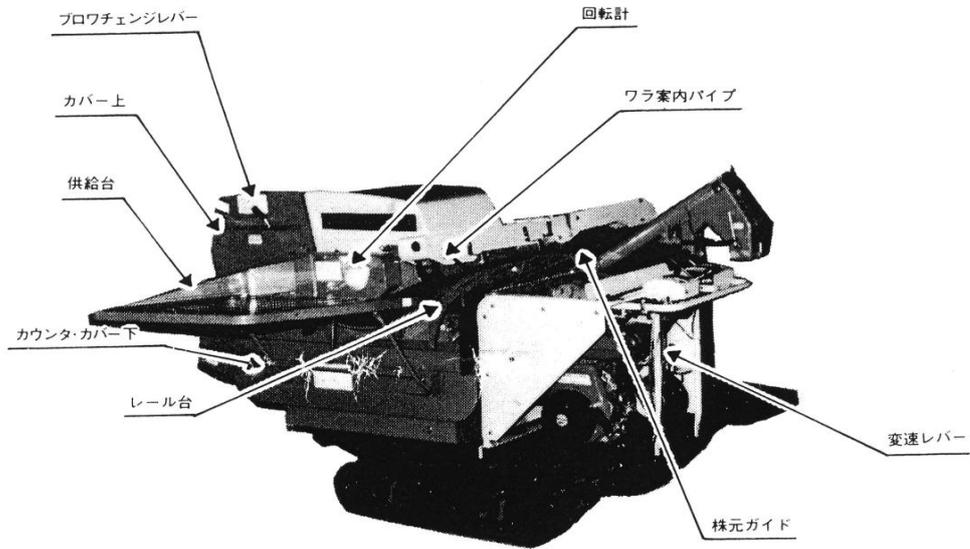
MT-40BD



目 次

1. 各部の名称	1	6.5 ラジエータ防じんカバーの掃除	7
2. 特長	2	6.6 エアクリーナの点検・清掃	7
3. 運転前の準備	3	6.7 脱こく作業時の注意	7
3.1 各部の給油と給水	3	7. 各部の調整	8
3.2 各部の注油脂	3	7.1 クローラ	8
4. 運転操作	4	7.2 駐車ブレーキ	8
4.1 エンジンの始動と停止	4	7.3 脱こくクラッチ	8
4.2 走行操作上の注意	4	7.4 フィードチェンの張り方	8
5. 脱こく作業前の準備	5	7.5 レール台及びワラ案内パイプの調節	8
5.1 供給台のセット	5	7.6 トウミ風力調節	9
5.2 排じん筒の方向調整	5	7.7 排じん風力調節	9
5.3 排ワラ搬送機の取扱い	5	7.8 タテスクリュケースの掃除	9
5.4 糶受台のセット	5	7.9 二番口の操作	10
5.5 四番糶回収袋	5	7.10 こき胴ワラ方向板の調節	10
5.6 袋支え棒のセット	5	7.11 ワラ切刃の研磨	10
6. 脱こく作業	6	7.12 株元ガイドの調節	10
6.1 脱こくクラッチレバー	6	8. 不調時の点検と処置	11
6.2 回転数の合わせ方	6	9. 作業終了後の手入れ	12
6.3 正しい供給のし方	6	10. 仕様	12
6.4 糶袋の交換のし方	7	安全作業の為の心得	13

1. 各部の名称



2. 特 長

■小形軽量化

機体は従来形より一段とコンパクト化され走行時の視界も大巾に良くなり、狭い農道でも楽に運転できます。

■ラセン方式の糶搬送

糶の搬送はラセン方式の採用で、従来のスロウ方式と異なり回転変動によるつまりがなく安心して作業できます。

■好選別と高能率

糶の選別は揺動選別方式を採用しているため、稲の乾燥状態に影響されることがなく、常に良好な糶の仕上がりが得られ、高能率を維持することができます。

■糶の機外飛散防止

供給台外部への糶のこぼれを防ぐ特許飛散防止板を設け、又粉じん防止板の改良により入口部よりの糶飛散も防ぎ、圃場への糶損失が少なく経済的です。

■四番及びささり糶の完全回収

四番口には強力な特許ささり落とし装置と糶回収袋が設けてあり、作業中の糶の損失がありません。

■糶袋内蔵装置と供給台

- 糶受台には糶袋を10枚内蔵することができますので、袋交換の手間が省けます。
- 供給台はこき高さが低くできていますから背の低い方でも疲れずに楽に作業できます。またワンタッチで折りたたみできる構造になっておりますので、農道の移動や、運搬、格納など非常に便利に作業できます。

■糶出口にオートブザー装置

糶が袋一杯になるとブザーで知らせるので安心して作業できます。

■2番口

1番口の選別性能および排塵性能が一段と向上し、特に糶、空糶が多い場合の高能率作業に威力を発揮します。(S S 30、S S 310は除く)

■ブロワ変速のワンタッチ化

ブロワの排じん調節がレバー操作によりワンタッチでできるので操作が一段と楽になりました。

■安全性

伝導ベルト及び回転部分には全てカバーを設けてあります。又有害な突起部や、露出部分のない様安全対策を施し、作業者は安心して使用できます。

3. 運転前の準備

3.1 各部の給油と給水

ご使用前には必ず点検して不足の場合は補給してください。

給油箇所	毎日作業前	交換時間		オイルの種類	注入量	備考
		第1回	その後			
ミッションケース		50時間目	毎年使用前	ギヤオイル GL-3級SAE90#	2.6ℓ	
エンジン クランクケース	点検 補給	50時間目	100時間ごと	エンジンオイル	0.7ℓ	MT-35C・51
				SC級SAE30#	0.9ℓ	MT-35C・71 MT-40B
				エンジンオイル CB級SAE30#	1.7ℓ	MT-40BD
エアークリーナ	点検	50時間目	100時間ごと	エンジンオイル SC級SAE30#	0.05ℓ	MT-40BD
脱こくギヤボックス		50時間目	100時間ごと	シリンダー油120#	0.12ℓ	
燃料補給				自動車用無鉛ガソリン	4ℓ	MT-35C・51
					5ℓ	MT-35C・71 MT-40B
					JIS2号軽油	6.6ℓ
冷却水	点検・補給			水	1.7ℓ	MT-40BD

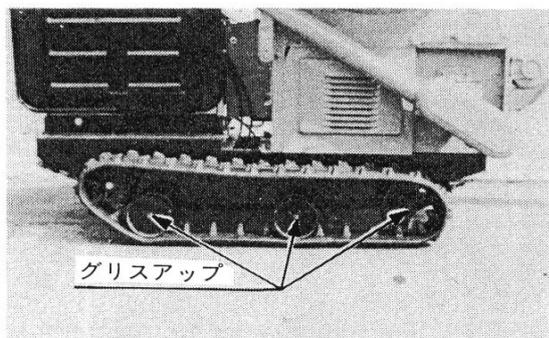
〔注意〕

燃料補給時にこぼれた燃料は非常に危険ですので、きれいにふきとって始動してください。

3.2 各部の注油脂

■トラックローラ・アイドルローラ

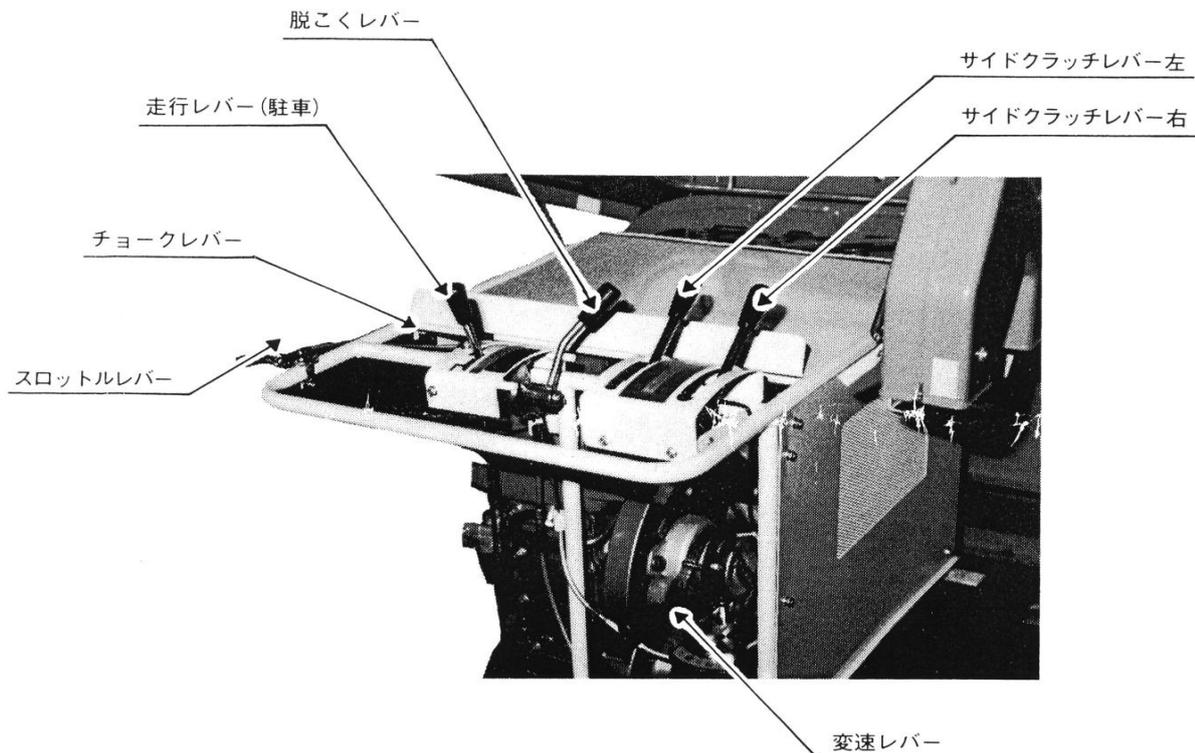
左右8箇所



■その他

機体に貼付してあるマークを見て注油してください。

4. 運転操作



4.1 エンジンの始動と停止

■エンジンの始動について

変速レバーは「N」の位置にして、走行クラッチ、脱穀クラッチなどのレバーが「切」の位置になっていることを確認してからエンジンを始動させてください。

エンジンの始動のしかたについては別冊子のエンジン取扱説明書を参照してください。

4.2 走行操作上の注意

- (1) 走行中の変速は絶対さけてください。
必ず停止の状態に変速の切換を行なってください。
- (2) 狭い道路や農道では、2速で旋回させますと危険ですので、エンジンの回転を下げるか、

又は1速に変速して、十分に気をつけて操作してください。

- (3) 長距離走行は2速で走行し、エンジンをフル回転しなくとも静かな走行ができる速度になっています。
- (4) 発進の際は前進・後進を問わず周囲の安全に充分注意・確認の上行ってください。
- (5) トラック及びトレーラーへの積み降ろしの際危険をとまいませんから必ず1速、又は後進の直進でゆっくり行ってください。
- (6) 積み降ろしの際は危険ですから、緊急の場合を除きサイドクラッチは使わないでください。
- (7) 積み降ろし、高いあぜ越えのときは、十分な強度（幅25cm以上、長さは高さの3倍以上）のある滑り止め付きのアユミ板を使用してください。（20°以下）

5. 脱こく作業前の準備

5.1 供給台のセット

横に水平にして脱こく機入口下の供給台フックで固定します。

5.2 排じん筒の方向調整

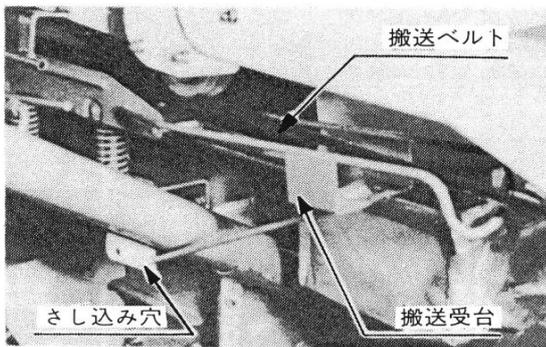
脱こく作業の風向きによって排じん筒の方向が変えられます。

5.3 排ワラ搬送機の取扱い

工場出荷時は下側へたんであります。脱こく作業をするときは上方へ上げて水平にし、ベルトを張り、押へ金具で固定してください。搬送受台はワンタッチでタテスクリュパイプの穴にさし込んで組立てできます。

【注意】

- (1)搬送機の取付けの場合、搬送ベルトが搬送Vプーリに入っていることを確認してください。
- (2)搬送受台のさし込み穴は下図の様にさし込んで搬送ベルトと平行になるよう確認してください。



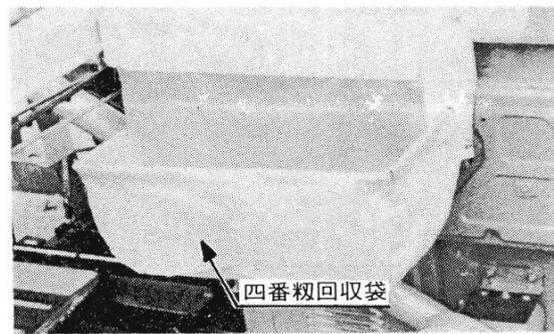
5.4 粃受台のセット

後方へ引いて吐出口の真下になるようにセットします。

5.5 四番粃回収袋

工場出荷時ははずしてあります。脱こく作業をするときは、四番口袋取付部へさし込んでください。

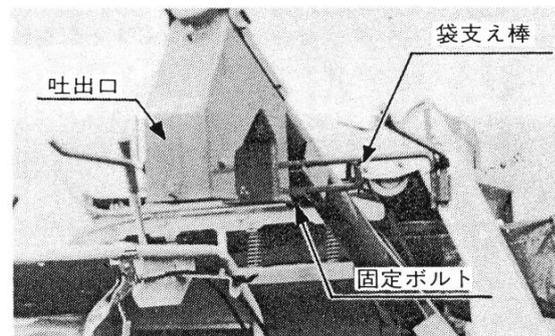
四番口よりワラが出る時、強力なささり落とし装置により、ワラに付着している粃は、四番回収袋内にはたき落されます。袋内にある程度の量が集蓄されたら、袋支えより外し、脱こく部へあけて、再度選別してください。



5.6 袋支え棒のセット

上方へ上げ水平にし、左右の間隔は粃袋に合わせてください。(MT-35C)

工場出荷時は別に梱包してあります。梱包をといて図の様にセットし、粃受台に対して粃袋が外れない位置で固定ボルトで固定してください。(MT-35Cを除く)



6. 脱こく作業

6.1 脱こくクラッチレバー

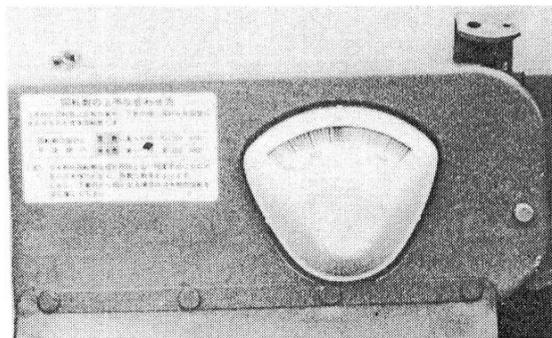
- (1)脱こくクラッチレバーを入れるときは、前後左右の安全を確認し、合図をしてから行なってください。
- (2)脱こくクラッチレバーを入れるときは、供給台を倒し、排ワラ搬送機を固定してから行なってください。
(排ワラ搬送ベルトがVプーリーに確実に入っていることを確認してください。)

〔注意〕

脱こく機運転後、約3分間空転し各部に異常がないことを確認してください。

6.2 回転数の合わせ方

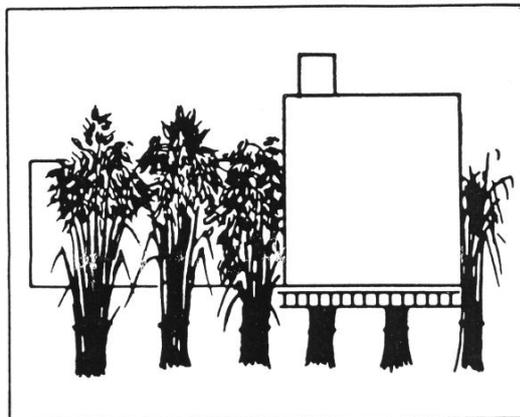
脱こくのクラッチレバーを「入」の状態ですロットルレバーの調節で合わせてください。



6.3 正しい供給の仕方

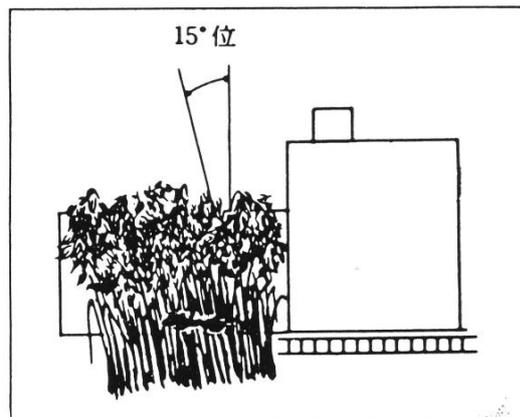
■束ごき

まっすぐ、或いは心もち穂先からできるだけ束を広げて、等間隔にチェーンにかけてください。



■バラごき

まっすぐ、或いは少し穂先を遅らせるようにして一定の厚さで、連続的に供給してください。

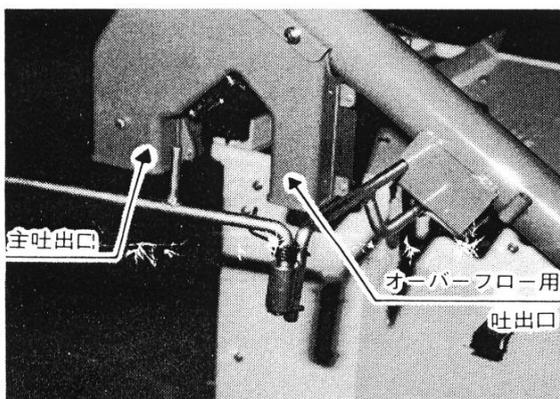


〔注意〕

こき胴への供給深さは、こき残りの出ない範囲で、できるだけ浅く供給してください。深すぎると動力を多く消費し、各部の回転数が低下し、性能が低下します。

6.4 籾袋の交換の仕方

籾受台上部にオーバーフロー付吐出口があります。手前吐出口が主で、後側の吐出口がオーバーフロー用です。主吐出口の袋内に籾が一杯になるとブザーで知らせますので、すばやくシャッターを閉じ、次の空袋にうつしかえてください。この時シャッターを開けることを忘れないでください。一杯になった袋はチャックを閉めて袋かけ棒より外し、籾受台上から降します。



6.5 ラジエータ防じんカバーの掃除(MT-40BD)

(1)ラジエータ防じんカバーの掃除

脱こく作業を続けている間に防じんカバーにワラくずや、ごみが附着し、目詰まりが発生することがあります。

目詰まり状態のまま作業を続けると、エンジンの冷却能力が低下し、オーバーヒートの原因となります。

運転前や脱こく作業中にも、防じんカバーを取外し、常に掃除してください。

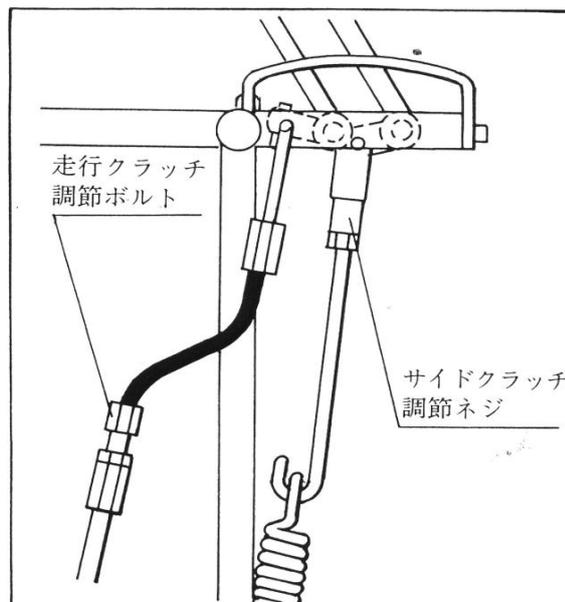
6.6 エアクリーナの点検・清掃

脱こく作業時は、特にちりやほこりを吸いやすいので、使用前にエアクリーナのエレメントを取外して清掃（オイルバス式はオイルの交換）してください。

(別冊子のエンジン説明書を参照)

6.7 脱こく作業時の注意

- (1)クラッチレバーを入れる時は前後左右の安全を確認し、合図をしてから行なってください。
- (2)脱こく作業する時はエンジン回転を上げ、クラッチを入れ、回転を調整します。
又停止の際はクラッチを切り、エンジン回転を下げてください。
- (3)作業中はエンジンの回転速度と音に注意し、回転ムラや変動をできるだけ少なくし、常に一定回転速度で脱こくしてください。
- (4)作業中は各部に異常がないか注意し、もし異常があれば、必ずエンジンを止めてから処置をしてください。
- (5)オーバーフロー用籾袋が一杯になったら、すぐに交換してください。
- (6)作業中は排ワラのたまり状態に注意し、搬送ブリーや搬送ベルトにワラを巻付かせないようにし、ある程度たまれば他の場所に取り除くか、機械を移動させてください。
- (7)脱こく作業中は回転部分、軸ブリー、ベルトなどには触れないようにしてください。
- (8)Vベルトは初期に伸びる傾向にありますので4～5時間運転後に点検し、伸びのある場合は調節してください。



7. 各部の調整

7.1 クローラ

ロックナットをゆるめ、調節ナットを締込んでクローラを張ってください。

張り具合は、クローラの中央部を手でいっぱい押し約30kg、30～40mmたわむ程度に調節してください。

〔注意〕

左右のクローラの張り具合を同じに調節してください。

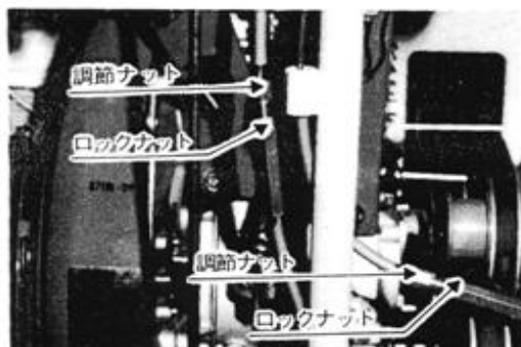


7.2 駐車ブレーキ

駐車ブレーキの調節はワイヤ方式ですので調節ナットを使って調節してください。

7.3 脱こくクラッチ

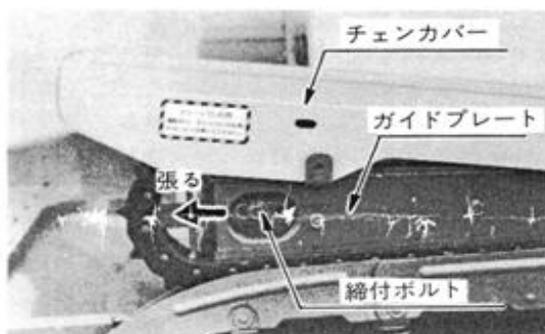
エンジンと脱こく機間のベルトがスリップする場合はクラッチワイヤの調節ナットを使って調節してください。



7.4 フィードチェンの張り方

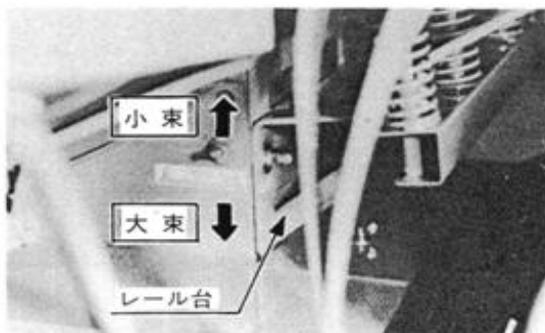
フィードチェンがゆるんだ状態で使用すると、チェンがスプロケットに乗り上げたりして故障の原因となります。

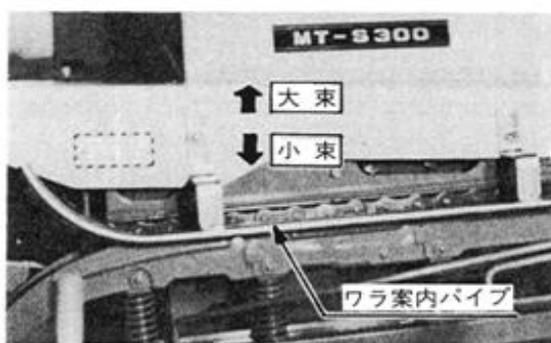
締付ボルトをゆるめてチェンを矢印の方向に張ってください。



7.5 レール台及びワラ案内パイプの調節

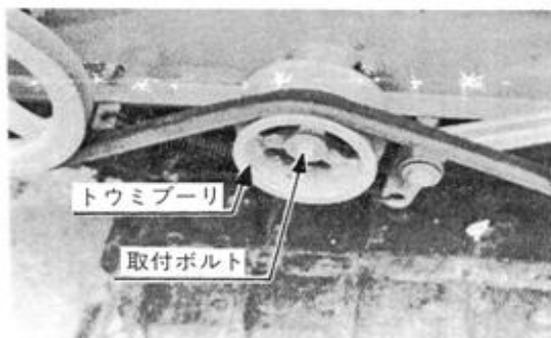
工場出荷時は標準位置にセットされてあります。バラ抜き、小束の場合はワラの引き抜かれ防止のため、レール台を上げ、案内パイプは下げてください。大束の場合は馬力を食いすぎるのでレール台を下げ案内パイプを上げてください。



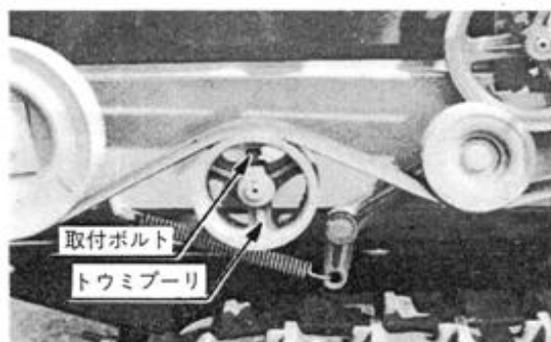


7.6 トウミ風力調節

取付ボルトをゆるめてトウミブーリの径を調節（さし替える）することができます。(MT-35C)



別途購入品の替トウミブーリと交換して調節してください。(MT-35Cを除く)



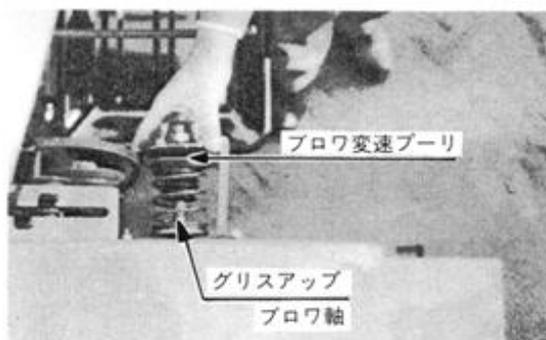
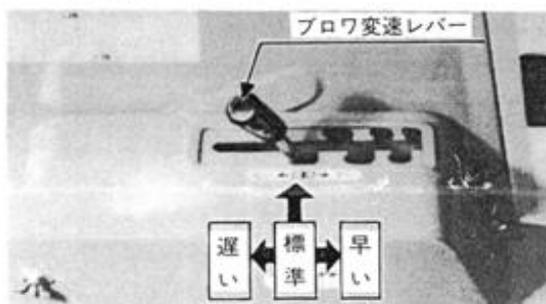
7.7 排じん風力調節

工場出荷時は稲用標準（写真位置）にセットされております。作業状態に合わせて変速レバーを切換えてください。

なお変速レバーの切換え操作をする時は、こき胴を回転させたままで行なってください。

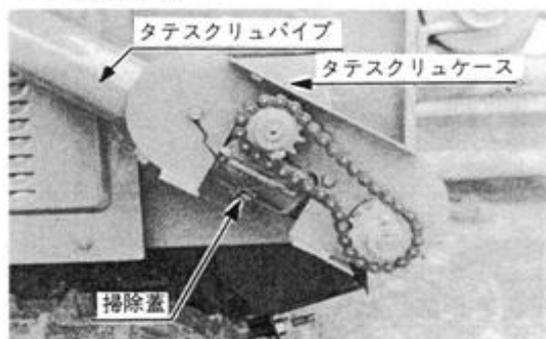
〔注意〕

長期保管時は内側の変速ブーリとブロウ軸の回転部にサビ等が発生しますと変速不能となる場合がありますので、ブロウ軸の回転部にはグリスを塗布してください。



7.8 タテスクリュケースの掃除

麦と稲の作業切換え時は、掃除蓋をはずし掃除してください。

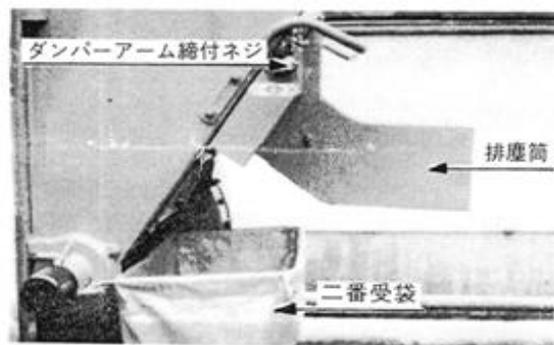


7.9 二番口の操作 (MT-35Cを除く)

工場出荷時は「閉」の位置にセットされておりますので通常作業ではそのまま作業してください。特に「秕」「空秕」等が多い場合はダンパーアームを縮めている蝶ネジをゆるめてダンパーアームを矢印の方向に引き「開」の位置にして、再び蝶ネジを締めつけてください。

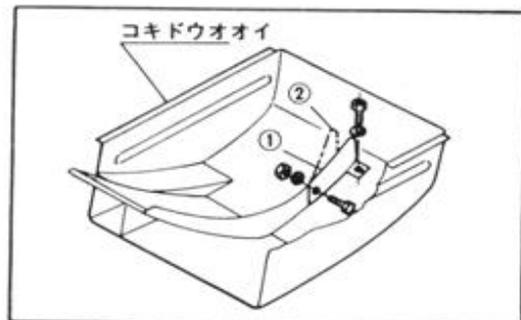
なおダンパを「開」にして秕を回収する場合は二番受袋を同時に装着してください。

(二番受袋は別途購入アタッチメントになっております。)



7.10 こき胴ワラ方向板の調節

能率をあげて脱こくする場合や乾燥の悪い稲を脱こくする場合は、図①の標準でお使いください。三番口、一番口にかき又（枝のついた籾）小枝梗が多く出る場合は、図②の位置に調節の上でお使いください。

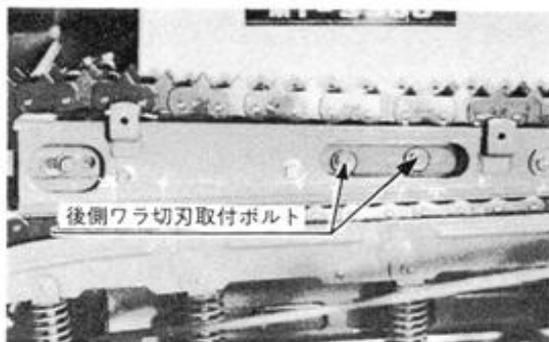


7.11 ワラ切刃の研磨

ワラ切刃が切れなくなると、こき室内に発生するワラくずを細かく切断できなくなるため、ワラくずの移動が悪くなり、必要以上の動力を消費するばかりでなく、排じん選別に送られたワラくずが、ブロワに吸引されにくくなって二番スクリューに巻きついたり、二番スロワに詰ったりしますので50～100アール使用ごとにワラ切刃を研磨してください。

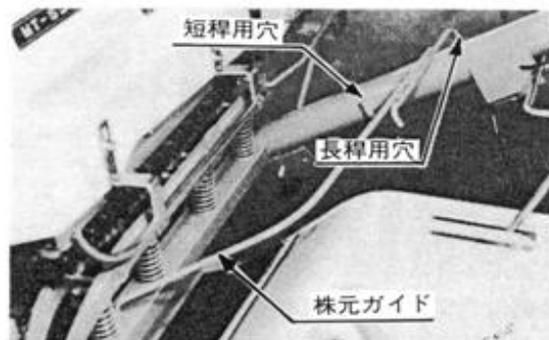
抜胴を中心に前後2ヶ所にあります。

予備として部品購入しておくとも便利です。



7.12 株元ガイドの調節

長稈（1m以上）の稲・麦の場合は株元ガイドを縦スクリューパイプの上部に移しかえてご使用してください。



8. 不調時の点検と処置

状 態	原 因	処 置 方 法	参照ページ
3番口（排じん筒）からこく粒の飛散が多い	①こき胴の回転速度が速すぎる	①回転計を見ながらエンジン速度を調節する	6ページ
	②排じん風力が強すぎる	②ブロワ変速レバーで遅くする	9ページ
	③フルイ線の位置が適正でない	③フルイ線の位置を下げる	
	④エンジンの回転変動が大きい	④正しいこき方をする	6ページ
	⑤かきまがたが多く出る	⑤こき胴オオイを外し、ワラ方向板を斜めに調節する	10ページ
脱ぶ粒が発生する	①こき胴の回転速度が速すぎる	①回転計を見ながらエンジン速度を調節する	6ページ
	②脱ぶしやすい品種である	②規定回転速度より少し低めて作業する	
こき残りが出る	①こき胴の回転速度が遅すぎる	①回転計を見ながらエンジン速度を調節する	6ページ
	②こき深さが適正でない	②こき深さを適正にして正しいこき方をする	6ページ
	③縮束が大きすぎる	③入口側のルール台を下げる	8ページ
	④こき胴駆動ベルトがスリップしている	④テンションボルトを締込んでベルトの張りを調節する	
1番口（もみ出口）の選別が悪い	①こき胴の回転速度が遅すぎる	①回転計を見ながら調節する	6ページ
	②各ベルトがスリップしている	②各ベルトの張りを調節する	
	③長ワラが混入する	③ワラを引き抜かれないようにルール台を上げ、ワラ案内パイプを下げる	8ページ
	④小枝梗・かきまがたが多く出る	④こき胴オオイを外し、ワラ方向板を斜めに調節する	10ページ
	⑤排じん風力が弱すぎる	⑤ブロワ変速レバーで速くなる	9ページ
排じん部及び2番スロワが詰まる	①こき胴の回転速度が遅すぎる	①回転計を見ながら調節する	6ページ
	②長ワラの発生が多い	②ワラ切刃を良く研ぐ	10ページ
	③排じん風力が弱すぎる	③ブロワ変速レバーで速くする	9ページ
	④エンジンの回転変動が大きい	④正しいこき方をする	6ページ
能率が上がらない	①こき胴の回転速度が遅すぎる	①回転計を見ながら調節する	6ページ
	②各ベルトがスリップしている	②各ベルトの張りを調節する	
	③長ワラの発生が多い	③ワラ切刃を良く研ぐ	10ページ
	④こき深さが適正でない	④こき残りぬ程度に浅く供給する	6ページ
	⑤ワラが混入する	⑤ワラを引き抜かれないようにルール台を上げ、ワラ案内パイプを下げる	8ページ
	⑥秕・空秕の処理が遅い	⑥2番ロダンバアームをⓂにする（MT-35Cを除く）	10ページ
	⑦排じん風力が弱い	⑦ブロワ変速レバーで速くする	9ページ
旋回性が悪い	サイドクラッチワイヤが伸びている	調節ナットによりワイヤ調節をする	7ページ
発進・走行しない	走行ベルトがスリップしている	走行リンクの長さを調節する（短かくする）	7ページ
エンジン関係		別冊子のエンジン取扱説明書を参照してください。	

9. 作業終了後の手入れ

1. 走行部に付着した泥などはきれいに水洗いし雑草やワラくずを取除き、水分をふき取ってください。
2. 各回転部分、摩擦しゅう動部分などには、十分に注油して錆びないようにしてください。
3. エンジンのマフラーやラジエータの周囲にゴミが残っていると、過熱や、エンジン不調の原因となりますので充分掃除してください。
4. 作業終了後格納の際は燃料コックを「閉」の位置にしてください。
5. 脱こく部にこく粒や、ワラくずが残っているとネズミが入り込むので、充分掃除してください。
6. 長期保管の際は雨や露がかからず、湿気や塩分、化学肥料などのない乾燥した場所をえらび、クローラの下に木台などを敷いてください。

10. 仕様

名称		マメトラハーベスター				
形式		MT-35C-51	MT-35C-71	MT-40B	MT-40BD	
機大 体さ のさ	全長	作業 2,300mm 格納 2,070mm	作業 2,300mm 格納 2,070mm	作業 2,300mm 格納 2,070mm	作業 2,430mm 格納 2,200mm	
	全幅	作業 2,200mm 格納 1,100mm		作業 2,230mm 格納 1,160mm		
	全高	1,240mm				
総重量		326kg	330kg	360kg	390kg	
能力		8~12アール/h		10~15アール/h		
走 行 部	走行方式	エンドレスゴムクローラ(後輪駆動)				
	走行速度	前進1速1.48km/h・2速 4.50km/h・後進1.18km/h				
	クローラ幅	160mm			180mm	
	接地圧	0.16kg/cm ²		0.18kg/cm ²	0.16kg/cm ²	
	轍間距離	640mm				
	登坂角度	最大 15°				
	主軸回転数	1,300 v. p. m				
	減速方式	歯車減速				
操向クラッチ	爪クラッチ					
脱 こ く 部	形式	BT-S S 30		BT-S 400		
	扱胴径×扱室幅	360×420		360×480		
	扱胴回転数	稲 560~600r.p.m/分		麦 630~680r.p.m/分		
	選別方式	揺動及び逆旋回吸引方式				
搭 載 エ ン ジ ン	形式	メイキ G510L-36	メイキ G710L-36	ヤンマーNSA60CT		
	排気量	192cc	267cc	331cc		
	連続定格出力	3.5ps/1,800	5.0ps/1,800	5.0ps/2,400		
	最大出力	5.0ps/2,000	7.0ps/2,000	6.0ps/2,400		
	使用燃料	自動車用無鉛ガソリン			JIS 2号軽油	
	タンク容量	4ℓ	5ℓ	6.6ℓ		
	始動方式			リコイルスターター	フライホイールハンドル	
	冷却方式			空冷	コンデンサー冷却	

上記仕様は予告なく変更されることがあります。

安全作業の為の心得

- (1) 過労・病気・薬物の影響・その他の理由で、正常な運転操作ができないと思われる場合は機械作業に従事しないで下さい。
- (2) 適正な帽子や作業衣を使用し、衣服の一部や、頭髪・手拭等が巻き込まれない様にして下さい。
- (3) 作業前には、常に正常な機能が発揮できるように、各部の点検整備に心掛けて下さい。又、作業後にも次の作業のために、点検整備を実施して下さい。
- (4) 機械の点検調整や、草の巻付を除去する作業は、必ずエンジンを止めてから行なって下さい。
- (5) 作業機の着脱は、できるだけ平坦な場所で行なって下さい。
- (6) エンジンを始動させる場合は、必ず主クラッチ「切」、チェンジレバーが中立「N」の位置にあるかを確認してから行なって下さい。
- (7) 燃料を給油する場合は、エンジンを停止し、火気は厳禁のこと。特に、くわえタバコでの給油は絶対にやめて下さい。
- (8) 作業中は、作業関係者以外の者を機械に近寄らせないで下さい。特に、子供には注意が必要です。
- (9) 作業中は、機械の周囲に注意し、安全を確認して下さい。特に、バック作業時には、足元の注意が必要です。また、バック発進時には、ハンドルが取られやすいので静かに発進して下さい。
- (10) ハウス内の作業や、屋内での点検整備では、排気ガスがたまりやすいので、換気には十分な配慮が必要です。
- (11) エンジンのマフラーは、非常に高温になりますので絶対に触れないで下さい。また、機械におおいをかける場合は、マフラー等の高温部が完全に冷却した後で行なって下さい。
- (12) 定置作業の場合等にベルトカバーを外して作業機をセットする時は、周囲に柵等を設け、手等がまちがって触れる恐れがないようにして下さい。
- (13) 機械を移動する時には、必ず作業機の回転は止めて行なって下さい。
- (14) 下り傾斜での方向転換は、平坦路面と異なり、サイドクラッチを切った反対側に回りますから、平坦地以外でのサイドクラッチ操作は避けて下さい。